

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

新潟県

学校名

燕市立燕北中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等全校生徒・道徳、総合的な学習
の時間、特別活動

目標・人権教育のねらい

自己肯定感や自己有用感を育むことが大きな教育課題であり、相互に思いやりの気持ちを持ち、個性を尊重する豊かな人権感覚を身に付ける。
他を思いやる言動と協働の心をもつ主体的な生徒を育成するため、助け合い、話し合い、学び合う集団をつくる。

実施した内容

- 1 異学年集団で取り組んだフラワーロード活動（5月、10月）
- 2 生徒会本部が企画し運営した全校レクリエーション（5月、10月）
- 3 体育祭後の構成的グループエンカウンター「ポジティブ・リフレーミング」（9月）
- 4 新潟県教育委員会スクールロイヤー活用事業講演会「いじめについて考えよう」
- 5 燕北中学校区絆スクール集会（10月）

工夫した点

- 1 全校レクリエーションや絆スクール集会の運営などで、生徒が自主的に考え、立案し、運営することを教職員が共通理解し、支援や助言に努めた。
- 2 話し合いや振り返りで、出された意見や相手の気持ちを否定しないことを徹底した。

他教科との
関連

- 1 道徳で、学校生活・集団生活の充実、思いやり・感謝、相互理解・寛容、自主・自律、自由と責任について学習した。
- 2 総合的な学習の時間の指導内容及び特別活動とのつながりを意識し、道徳の授業で学んだ内容を振り返らせながら指導した。

事業成果

- ・ 知識的側面：80～100% ・ 価値・態度的側面：90%以上 ・ 技能的側面：90%以上
- ・ 質問紙調査（6, 10, 11月）で、微増ではあるが、肯定的回答の割合が増えた。
- ・ 子供たち同士が互いの気持ちを考えて配慮する姿勢や態度が見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

新潟県

学校名

燕市立燕北中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

全校生徒・全教科

目標・人権教育のねらい

部落差別の不当性から、差別に負けずに強く生きる人々の生き方に共感することを通して、差別を自分のこととして考え、自ら差別を解消しようとする意欲や態度を育てる。差別を見抜く感覚をしっかりとち、差別をせず、見逃さず、なくすために、自分にできることを考え、行動しようとする力を身に付けさせる。

実施した内容

- 1 「生きるⅣ」を活用した人権教育、同和教育公開授業（7月）
- 2 中学校区小中合同研修会：人権教育、同和教育講演会（8月）

工夫した点

- 1 いじめ見逃しゼロスクール集会「いじめについて考える」（7月）で、差別やいじめが法律でどのように扱われるかなどを学ぶ機会を設けた。
- 2 小中合同いじめ見逃しゼロ絆スクール集会（10月）で、差別を身近なこととして考えられるよう、全員が聞いたり知っていたりする教材を用いて意見を出しやすくした。

他教科との
関連

- 1 生徒に学ばせたい人権課題を自校の人権教育の全体計画から明確にした。
- 2 各教科・特別活動・総合的な学習（探究）の時間において、人権教育の目標と結び付く教育活動を選定し、単元や教材を一覧表にした。
- 3 人権課題の内容と指導上の留意点を踏まえて指導した。

事業成果

- ・ 知識的側面：20～50% ・ 価値・態度的側面：90%以上 ・ 技能的側面：約80%
- ・ 質問紙調査（6, 10, 11月）で、微増ではあるが、指導の機会や授業の実践を重ねるにつれて肯定的回答の割合が増えた。
- ・ 態度や意志は高い数値であった。知識的側面で、人権問題、同和問題をしっかりと理解し説明することができる力を身に付けさせるという課題が明らかになった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

新潟県

学校名

燕市立燕北中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等全校生徒・社会、英語、道徳、
総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った早期からの自立意識の涵養と、豊かな人間性の育成を積極的に進める。

他を思いやる言動と協働の心をもつ生徒を育成するための教育活動を展開し、つながり合い、理解し合い、学び合う集団をつくる。

実施した内容

燕市役所総務部プロモーションコーディネーターによる講話「異文化や個性を尊重したコミュニケーション」（12月）

工夫した点

- 1 民間航空会社の国際線客室乗務員として勤務する方から、職場で経験した外国人との接し方や接客のプロとして配慮することなどを聞かせていただいた。
- 2 外国人が自分の出身国について語るという限定的な内容ではなく、グローバルニュートラルな視点から外国人とどのように接するかを考えさせるようにした。
- 3 飛行機の中で起こり得るコミュニケーション上の問題を、生徒に実演するという参加型の講演会にした。

他教科との
関連

- 1 社会（公民）、英語、道徳で、国際理解、国際貢献、異文化とコミュニケーション、公德心、順法精神などを学習した。
- 2 総合的な学習の時間の指導内容及び特別活動とのつながりを意識し、教科の授業で学んだ内容を振り返らせながら指導した。

事業成果

- ・ 知識的側面：50～70% ・ 価値・態度的側面：80～95% ・ 技能的側面：95%以上
- ・ 質問紙調査（6, 10, 11月）で、微増ではあるが、知識的側面の肯定的回答の割合が増えた。
- ・ 価値・態度的側面と技能的側面の回答の割合から、多様性を認め、尊重し、異文化を知ったりコミュニケーションをとったりしたいという気持ちをもつ生徒が多いことが分かった。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

新潟県

学校名

燕市立燕北中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等全校生徒・国語、道徳、特別活
動、総合的な学習の時間目標・人権教
育のねらい

同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
コミュニケーションにおける危険に気付き、話し合うことを通して、インターネットやSNS
を適正に利用するための態度を育てる。

実施した内容

- 1 いじめ見逃しゼロスクール集会（7月）
- 2 小中合同いじめ見逃しゼロ絆スクール集会（10月）
- 3 「新潟県SNS教育プログラム（高等学校編；三訂版）」を活用したインターネットによる人権侵害について考える授業（公開授業）（11月）

工夫した点

- 1 いじめ見逃しゼロスクール集会「いじめについて考える」（7月）、小中合同いじめ見逃しゼロ絆スクール集会（10月）で、いじめの構造や被害者・加害者の受け止めの相違、法律上の定義と裁判事例などを事前に学習した。
- 2 実際のコミュニケーションにおいてはトラブルがつきものであり、その対応には1つの答えがあるわけではないことを踏まえ、生徒間で最適解を求めるなどの話し合いを中心に授業を行った。

他教科との
関連

- 1 国語、道徳、特別活動、総合的な学習（探究）の時間において、言葉の学習や相互理解、個性の尊重、友情、信頼に関する学習をするときに、指導内容と関連させて学習を進め、既習の内容を振り返らせながら指導した。
- 2 人権課題の内容と指導上の留意点を踏まえて指導した。

事業成果

- ・ 知識的側面：70～80% ・ 価値・態度的側面：85～95% ・ 技能的側面：95%以上
- ・ 日常で直面することが起こり得る学習内容であり、トラブルを見聞きしていることから、知識的側面も数値が高かった。
- ・ 態度や意志は高い数値であった。知識、態度、技能ともに高い肯定的評価であるが、日頃の見取りや教育相談等から、生活上の自律や実践の継続が課題であることが明らかになった。